



平成19年「緑の募金」実績

24,532,689円

平成19年の緑の募金は、今年が緑の募金による森林整備の推進等に関する法律制定12年目で、新たなステージの2年目に当たり、募金目標額を28,000,000円とし、懸垂幕による事前広報やテレビ・ラジオによる募金の呼びかけ等を行った結果、前年比103.6%の実績となりました。

ご協力誠にありがとうございました。

この浄財の内、街頭募金・学校募金・家庭募金は募金額の50%を限度として、各市町村支部を通じて希望される募金団体に交付し、地域や学校などの緑化に活用してもらいました。その他の募金については、公募事業により各種団体やみどりの少年団等が行う森林づくりや緑化イベントなどの事業の助成金として交付いたしました。

「緑の募金」の使途につきましては、外部委員からなる緑の募金等運営協議会の意見を聞きながら、適切かつ有効に活用するよう努めています。

今後とも一層のご協力をよろしくお願いします。

企業、職場、個人、募金箱設置等にて1万円以上の募金を頂きました。

イオン株式会社、生田公良、えびず本郷株式会社、エプソンイメージングデバイス株式会社

王子製紙株式会社、大西正己、岡田電工株式会社、学校法人鳥取県東部自動車学校

株式会社一条工務店山陰、株式会社エコービジネス、株式会社加藤紙店

株式会社山陰合同銀行、株式会社新日本海新聞社、株式会社デコール

株式会社日刊建設工業新聞、河田明人、グッドヒル株式会社、国際ソロプロヂミスト鳥取

国立大学法人鳥取大学、財団法人鳥取県造林公社、財団法人鳥取県体育協会

サイトウコンサルタント株式会社、三和商事株式会社、清水章雄、シャープ米子株式会社

社団法人鳥取県建設業協会、社団法人鳥取県産業環境協会、社団法人鳥取県造園建設業協会

白岩 保、住友生命保険相互会社、千代川流域林業活性化センター、千代三洋工業株式会社

ダイドードリンコ株式会社、谷口信夫、智頭急行株式会社、中国電力株式会社

千代電子システム株式会社、独立行政法人緑資源機構鳥取水源林整備事務所、トスク

鳥取いなば農業協同組合、鳥取県山林樹苗協同組合、鳥取県森林組合連合会

鳥取県石油協同組合、鳥取県中部森林組合、鳥取県東部森林組合、鳥取県木材協同組合連合会

鳥取三洋電機株式会社、鳥取市老人クラブ連合会、鳥取信用金庫

鳥取大学林学科 S38年入学同窓生有志、鳥取トヨペット株式会社、鳥取りコー株式会社

西谷清志、日南町森林組合、日本海信販株式会社、ネオス株式会社中国、八頭郡連合婦人会

山本紀彦、湯梨浜町老人クラブ連合会羽合支部、米子信用金庫

平成19年鳥取県緑の募金実績一覧

募金特別会計の収支

(単位:円)

収入内訳	金額	摘要	支出内訳	金額	摘要
緑の募金	24,532,689	平成19年 募金実績	森林整備等助成事業	5,824,866	森林の整備、緑化の推進、みどりの少年団の育成、喜寿記念樹の贈呈等
			緑化交付金事業	7,397,139	家庭募金等の5割を上限に募金団体へ交付し地域・学校等へ植樹等を実施
その他	8,951,912	平成18年 繰越金等	募金資材	2,002,439	羽根、啓発資材、募金箱等の購入
			募金活動	2,319,219	テレビ・ラジオCM・懸垂幕・新聞・ポスター・チラシ等の広報
			推進費	539,647	緑の募金運営協議会開催、支部活動費
			中央負担金	1,340,000	社団法人国土緑化推進機構
			繰出金	4,000,000	一般会計へ繰出し
			繰越金	10,061,291	平成20年度への繰越
	33,484,601			33,484,601	

各市町村等の募金実績

単位:円、%

	街頭募金	学校募金	家庭募金	企業募金	職場募金	その他	計	前年実績	対前年比
鳥取市	34,694	330,741	2,958,128	0	434,147	64,653	3,822,363	3,701,330	103.3%
岩美町	7,465	30,604	718,871	0	116,300	168	873,408	883,169	98.9%
八頭町	34,076	73,457	873,030	0	14,183	0	994,746	1,023,974	97.1%
若桜町	0	30,208	300,455	6,470	506	0	337,639	306,915	110.0%
智頭町	17,143	13,528	475,350	0	0	0	506,021	570,484	88.7%
倉吉市	437,118	135,377	1,698,292	0	130,682	0	2,401,469	2,290,427	104.8%
湯梨浜町	0	58,322	844,836	0	33,465	0	936,623	972,155	96.3%
三朝町	0	20,151	465,721	0	11,760	0	497,632	395,998	125.7%
北栄町	0	24,731	899,734	0	51,469	0	975,934	1,003,045	97.3%
琴浦町	0	22,408	975,774	0	82,970	0	1,081,152	1,168,805	92.5%
米子市	135,682	292,585	2,225,055	0	229,126	0	2,882,448	2,824,638	102.0%
境港市	0	66,485	945,280	0	15,756	0	1,027,521	1,300,520	79.0%
日吉津村	0	5,755	350,890	0	0	0	356,645	307,382	116.0%
南部町	0	0	543,955	0	841	0	544,796	571,367	95.3%
伯耆町	0	41,257	561,810	0	1,605	0	604,672	496,978	121.7%
大山町	52,683	147,853	741,186	2,690	40,565	1,894	986,871	966,216	102.1%
日南町	0	21,467	408,300	0	807	1,426	432,000	412,550	104.7%
日野町	0	9,585	335,370	0	0	0	344,955	276,120	124.9%
江府町	0	20,666	215,000	0	0	0	235,666	224,975	104.8%
事務局	0	24,121	0	542,307	2,582,611	1,541,089	4,690,128	3,991,522	117.5%
計	718,861	1,369,301	16,537,037	551,467	3,746,793	1,609,230	24,532,689	23,688,570	103.6%

小鹿地域をもっと魅力的に（緑の募金公募事業）

小鹿地域協議会 吉田宗成（平成19年度会長）

小鹿地域協議会は、平成19年1月に『自らが主役となり、自主的な活動を通じていきいきとした暮らしができる活気ある小鹿づくり』に取り組むための推進母体として設立、手探りの状態から活動をスタートさせました。

このなかで活動の大きな柱の一つに『住民による地域の魅力アップ』を掲げ、県中部を代表する渓谷として知られる名勝地『小鹿渓』を中心とした自然豊かな小鹿地域の環境整備に取組みました。

小鹿渓は、一年を通じて素晴らしい風景と五感で感じる自然が残っており、特に紅葉の時期には多くの観光客が訪れる景勝地です。以前、地域の有志により小鹿渓を代表する『もみじ』を少し植樹していますが、この魅力をもっと広げようと鳥取県緑化推進委員会から地域緑化の推進事業の助成を受け、もみじの苗木100本を購入、地域の住民30名が参加して小鹿渓に通じる道沿いに植樹しました。

今後、小鹿地域のシンボルロードとして住民による草刈りや管理を行い、四季折々に訪れる観光客にも緑豊かな環境の素晴らしさと大切さを伝える活動に取組んで行きたいと考えています。



桜と人との相関関係の構築を目指して（緑の募金公募事業）

大瀧部落活性化委員会

大瀧部落は雄大な大山（伯耆富士）を正面に見つめ、四季を通じて美しい大山を眺望できる景観あふれる地域であります。その良きところに、一層景観を際出させるため、今年、部落一同が出役により緑の募金の緑化事業の助成を受け、桜を70本植栽しました。かつては、この地域の県道に明治百年を記念し、明治百年桜と命名し植栽され、桜の咲き誇る時は地区の人々はもちろんのこと、通行する自動車の車窓からの眺め、徒步通学する子ども達等の眺めはまさしく絶景であり、心の潤いをもたらしていましたが、県道の拡幅のため、伐採されました。このため是非、

この再現を夢見、又桜が咲き誇ることにより地域の活性化に繋がることが切望され、この度の実現となりました。近くには、清く住んだ清流の川があり、川には岩魚等が泳ぎ又時期になると蛍が乱舞する等、本当に景観溢れる地域であり、この地域の良さが幅広く周知され、都市等から人々に来て頂き、地域の人々との交流が図られることの相乗効果を期待するところです。

桜が人との中をとりもち、地域にもたらすものが今後、良き成果となっていく事となるでしょう。

このため、この桜は地域の「宝」として大事に育てていきたいと思います。



笑顔を増やす緑（学校環境緑化モデル事業）



琴浦町立浦安小学校長 真山昭子

子どもにとって環境に恵まれることは、とても大切です。学校環境緑化は物的環境のなかでも、情緒を安定させたり感性を育んだりする上で欠くことのできないものです。

嬉しいことに、本校は「学校環境緑化モデル事業」の指定を受けることが出来ました。この事業により、緑と子どもとの関わりが一段と増し日常的になりました。緑に触れ子ども達の心が柔らかくなり笑顔が増えました。

取り組みの一端を紹介します。

・わんぱく広場を芝生に

土俵の周りに芝を植えました。子ども達は、裸足で芝が敷き詰められた広場を走り回っています。土俵のそばで、相撲の応援をしたり出番を待ったりしている子もいます。芝の上で仲間とのコミュニケーションが増えました。相撲に勝っても負けても笑顔が絶えません。

・四季折々花に囲まれて

枯渇していた池が見事な花壇に変身しました。子ども達は廊下から毎日この花壇を眺めています。校庭で遊ぶ時にも眺めます。植え替えのときは子どもも手伝います。四季折々の花々は、子どもたちの心をなごませ、育ててくれます。



・大木の剪定ですっきり安全に

何年も手つかずの大木を剪定しました。台風で折れる心配もなくなり、木の下で安心して遊ぶことが出来ます。すっきりして眺めが良くなった木の枝に小鳥も沢山とまっています。

学校の緑や花が豊かになり、大樹が手入れされ、学校も子どもの心も明るくなりました。改めて、学校環境緑化の大切さを感じています。

第17回森林のめぐみ感謝祭の開催

「とつとり森林月間」のフィナーレを飾る第17回森林のめぐみ感謝祭は、実行委員会（山根英明会長）の主催により、10月28日（日）に東伯郡琴浦町山川の「船上山ダム周辺広場・船上山少年自然の家」を会場に開催されました。



記念式典では、本年度認定された森の名手・名人の認定証が、本委員会の鉄永幸紀理事長から高野忠氏に伝達されました。

当日は、県下各地から5,000人の来場者があり、森林や木に親しむ体験や展示、周辺の元気な集落・団体等の出展などで会場は大にぎわいでした。

本委員会は、実行委員会メンバーとして参画し、地元小学校みどりの少年団の協力により来場者に緑の募金を呼びかけるとともに、ウメモドキ、ハナミズキの苗木1000本を2回に分けて、来場者に無償配布しました。

また、併催行事として高岡地内の森林で森林ボランティア等37名による枝打ち体験交流を実施しました。2時間足らずの作業で、0.2ヘクタールのスギ・ヒノキ林がきれいに枝打ちされました。



名手・名人認定証の伝達



苗木配布



枝打ち体験交流

鳥取リコー株式会社 吉川和之

用意された枝打ち道具を身に付けて、ペテランからやり方を教わって見様見真似で枝を打っていきます。作業が進み、握力がなくなってくると「やってもやってもきりがないなあ」とか「本当に予定どおり終るのかなあ？」と思い始めましたが、後ろを振り返ると、枝を落として見晴らしが良くなっているのに、どこから入ってきたか判らないほど遠くへ来っていました。

やっぱり人数がいるということは凄いものです。最初は僕たちを拒んでいるかのように見えた森も、明るくなった今では、子供たちの遊び場のように見えます。ささやかな力が何かを変えていく、そんなことを感じた船上山の枝打ちでした。

参加者の声

リコマイクロエレクトロニクス株式会社 佃彰浩

今まででは、枝打ちや間伐は良質な木材の生産のみを目的として行われると思っていたが、枝打ち等の手入れをすることにより日光が十分に当たるようになるため二酸化炭素の吸収量が多くなり、環境保全にもつながると知りました。

枝打ちの作業自体は、慣れない姿勢での力仕事だったので想像以上に大変でしたが、作業後の森林はとても見晴らしが良くなっており、達成感がありました。

また、枝打ち以外にもチェーンソー・アートの実演等のイベントやヘリコプター遊覧もあり、多くの貴重な体験をすることが出来ました。

機会があれば、また参加したいと思います。

第31回全国育樹祭及び全国緑の少年団活動発表大会に参加して

米子市立成実小学校教頭　登田　美奈子

25年ぶりの熊本でした。3名の児童とともに6時間かけて着きました。

一日目の活動発表大会では、5つの少年団の発表がありました。どこもすばらしい実践であり気合いの入った発表でした。緑の少年団が学校主体ではなく、地域が少年団を結成していて、小・中学生・地域の大人が一緒に活動し、木の伐採までしている団もありました。

本校は、田んぼでの活動、学校林での活動、花の栽培、サケの飼育等について発表しました。自然から多くのことを学び、自然のすばらしさに触れ、自然を大切にていきたいと決意を述べました。

二日目は阿蘇市にある「阿蘇みんなの森」に行き、全国育樹祭に参加しました。

会場に入る林に一步足を踏み入れた途端、足元からヒノキのよい香りが漂ってきました。見ると、2センチ角のヒノキのチップが敷いてありました。なんという演出だろうと感心しました。会場のあちこちに木製のプランターが色とりどりの花を咲かせていました。このプランターは熊本県のすべての緑の少年団の手作りで、花も緑の少年団の育てた花であることが分かりました。

皇太子殿下が昭和天皇の植樹された木の手入れをされるのを見た後、皇太子殿下の前で、大会長である江田五月参議院議長よりクスノキの苗木をいただきました。そしてそれ以外にも、ヒノキ・イチョウ・スギ・イチイガシの苗木を送っていただきました。大切に育てたいと思っています。

学校の校長室前に、盾や表彰状2枚（緑の奨励賞と活動発表に対して）と盾、活動発表大会で行進に使った



プラカード等展示しています。副賞としていただいたお金で、記念品としてものさしを全校児童に配布しました。また、手軽な顕微鏡（ダブルスコープ）やルーペセットを購入し、自然の観察に役立つようにしました。

熊本の実行委員会の方々には大変親切にしていただきました。このような機会を与えてくださった鳥取県緑化推進委員会のみなさんにも大変感謝しています。ありがとうございました。

成実小学校みどりの少年団 5年 権田 芽生

わたしは、熊本県であった全国育樹祭に参加しました。

一日目は、今まで練習してきた成実小みどりの少年団のスピーチでした。すごい大舞台でとても緊張しました。入場の仕方など何回か練習すると本番が始まりました。

最初に、プラカードを持って入場しました。プラカードが重くて疲れました。全部で70校近くの熊本県の緑の少年団が参加していてびっくりしました。

入場が終わるといよいよスピーチです。5校中4番目だったので、ちょっとほっとしました。でもすぐ出番がきました。足ががくがくふるえました。声もふるえました。少しまちがえました。でも自分ではよかったです。成実小のことがけっこう伝わったかなと思いました。

二日目は、育樹祭です。皇太子様が来られると聞いてどきどきしていました。わたしと矢野さんが、みんなの前で苗木を受け取りました。皇太子様はテレビで見ているときと全然変わりませんでした。とても緊張したけど、これもきちんとできてよかったです。苗木はクスノキでした。

その他にもいろいろな催し物がありました。熊本県の緑の少年団の人は、皇太子様の前でスピーチを発表していましたのですごいなあと思いました。

わたしは、全国育樹祭に参加してすごい経験をしたなと思います。今後もみどり活動などがんばっていきたいです。緑を大切にしたいです。

成実小学校みどりの少年団 5年 矢野 未侑

わたしは、熊本県に行って成実小の活動発表や育樹祭に参加しました。

一日目は、わたしたちは、成実小の自然や活動について発表しました。

まず、学校のみどりの少年団の結団式、鳥取県の緑の少年団交流活動などがあることや田植え・シイタケの

植菌などの活動発表をしました。とても緊張しました。成実小学校以外では、4校が発表しました。

他の県の発表は成実小の活動と似ているものが多かったですが、成実小のように校地内に「みんなの森」のような学校林がある小学校は少なかったです。車で何時間もかけて行く学校や、学校から遠いところにある小学校が多かったので、成実小は便利だと思いました。

二日目は、育樹祭で阿蘇山に行きました。阿蘇山はすごくはっきりしていてきれいな山なのでびっくりしました。木がたくさんあって空気が冷たかったです。すごく寒かったです。

育樹祭はすごく緊張しました。クスノキの苗木をもらうとき、苗木が重くてびっくりしました。成実小にまた、緑が増えるのでとてもうれしいです。成実小は、自然がいっぱいあり、今では、宝石山にもきれいな道ができ、「成実大池」という池もできたのですごく自然に恵まれているんだなあと思います。

これからは、成実小みどりの少年団の団員として自然を大切にしていき、いろいろな活動にもどんどん参加して、もっと自然とふれ合っていきたいです。

成実小学校みどりの少年団 5年 太田 千尋

発表当日、リハーサルをしました。わたしは、成実小みどりの少年団の団旗を持って行進する役と賞状を受け取る役と活動発表のパソコン操作をする役になりました。団服に着替えて待ちました。

「選手入場。」と言う言葉とともに、一斉に入場しました。ステージに上がったら、会場のみんなから拍手され、とても気持ちよかったです。だんだん発表が近づいてくるにつれ緊張が高まってきました。ついに活動発表です。

わたしは、パソコン操作の役だったので、パソコンが置いてあるところの椅子にすわりました。権田さんと矢野さんが発表している言葉に、一生懸命パソコンの映像を合わせました。もう頭の中が真っ白になりました。でも、二人の言葉とぴったり合ってきちんと終わりました。手は、汗びっしょりでした。でも、よい経験になりました。

これからも、花を育てたり、木を植えたりして、緑を増やす活動をしていきたいです。

みどりの少年団交流集会

平成19年度みどりの少年団交流集会を、8月1日から2泊3日の日程で県立大山青年の家において開催しました。

今年は、倉吉市の北谷、米子市の箕蚊屋・車尾・成実・淀江の5小学校みどりの少年団総勢47名の参加となりました。

三日目に予定していた大山の自然観察が台風5号接近のため中止となり、早めの解散となりましたが、団員は元気に活動し交流を深めました。

【内容】 1日目 ウッドクラフト、野外炊飯(牛丼) キャンプファイヤー

2日目 自然観察、カヌー教室、星空観察

3日目 大山の自然観察(台風接近のため中止)



野外炊飯



キャンプファイヤー



カヌー教室

国土緑化・育樹運動ポスター原画コンクール審査結果

鳥取県と共に実施した「平成20年度用国土緑化・育樹運動ポスター原画コンクール」鳥取県予選は、審査の結果次の皆さんが受賞されました。

なお、鳥取県知事賞、鳥取県教育委員会教育長賞及び社団法人鳥取県緑化推進委員会理事長賞の6点は、社団法人国土緑化推進機構が実施する中央審査に応募しました。

区分	小学校の部			中学校の部		
	学校名	学年	氏名	学校名	学年	氏名
鳥取県知事賞	赤崎小学校	2	吉田さくら	後藤ヶ丘中学校	1	伊藤 美緒
鳥取県教育委員会教育長賞	赤崎小学校	5	谷口奈菜子	気高中学校	1	吉岡 七彩
鳥取県緑化推進委員会理事長賞	多里小学校	4	荒木 琴乃	気高中学校	1	田渕 慎也
佳作	赤崎小学校	2	佐野あやか	後藤ヶ丘中学校	1	松浦 夏子
	赤崎小学校	2	佐藤 がく	気高中学校	2	縫 尚典
	赤崎小学校	5	前畠 敦矢	気高中学校	2	勝田 千曉

小学校の部



知事賞 吉田さくら
赤崎小学校 2年

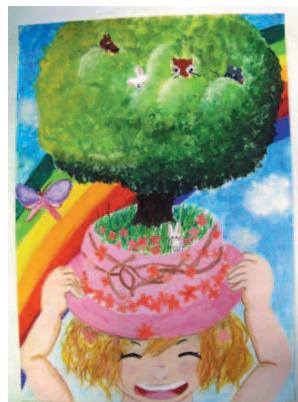


教育長賞 谷口奈菜子
赤崎小学校 5年



理事長賞 荒木 琴乃
多里小学校 4年

中学校の部



知事賞 伊藤 美緒
後藤ヶ丘中学校 1年



教育長賞 吉岡 七彩
気高中学校 1年



理事長賞 田渕 慎也
気高中学校 1年

事務局だより

平成19年度の「森の名手・名人」認定

森林の文化や技術の伝承を目指す“もりのくににっぽん運動”の一環として認定される「森の名手・名人」に、平成19年度は、鳥取県からは、森の伝承・文化部門で高野忠（三朝町）さんが認定され、鳥取県の「森の名手・名人」は合わせて15名になりました。

今年の認定証の伝達は、10月28日に東伯郡琴浦町山川の「船上山ダム周辺広場・船上山



少年自然の家」で開催された第17回森林のめぐみ感謝祭の式典の中で行われ、鉄永幸紀理事長から認定証と本委員会からの記念品が贈られました。高野忠さんは、建築大工としての60年近くの経験で培った継手、仕口など、伝統建築に欠かすことのできない高度な技術を習得され、県内各地の古民家や神社・仏閣などの修復を手がけておられます。



また、21年の永きにわたり、職業訓練法人中部建築高等職業訓練校校長として、自ら技術指導に当たられ、年間10人近くの訓練生を養成しておられます。

中国・四国地区緑化功労者に成実小学校みどりの少年団

11月20日に広島県広島市で開催された平成19年度中国・四国地区緑化推進協議会総会において、中国・四国地区緑化功労者7名の表彰が行われ、鳥取県からは米子市立成実小学校みどりの少年団が受賞されました。



緑の募金街頭募金

成実小学校みどりの少年団は、「みんなの森」を活用した森林学習・椎茸植菌体験や県植樹祭・みどりの少年団交流集会への参加、緑の募金街頭募金の実施、フラワーロードづくりなど活発な緑化活動をされていることが評価されての受賞となりました。



椎茸植菌体験

会員募集のお願い

社団法人鳥取県緑化推進委員会は、県民の皆様の善意による「緑の募金」などを主な財源として、森林の整備や身近な緑化の推進を通じて、緑豊かな住みよい県土づくりなどの推進に寄与することを目的として、平成8年に設立された公益法人です。

本委員会の組織運営は、正会員（県・市町村・団体・個人）及び賛助会員（企業）の皆様の会費を主要な財源としており、県民の皆様のご理解・ご協力の上に成り立っています。

趣旨にご賛同いただける皆様のご入会を心よりお願い申し上げます。お問い合わせは、本委員会までお願いします。

会員の年会費 個人・団体・企業 一口1万円以上